

(協議事項)

市立特別支援学校の設置に係る取組みについて

1 趣旨

市立特別支援学校の設置に向けたこれまでの検討状況を報告するとともに、今後の進め方について協議するものです。

2 経過

- | | | |
|----|-------|---|
| 6. | 6. 20 | 経済文教委員協議会で今後の進め方について協議 |
| | 7. 18 | 教育委員が須坂市立須坂支援学校を視察 |
| | 30 | 松本養護学校長及び寿台養護学校長と意見交換 |
| 9. | 21 | 第1回特別支援教育フォーラム「地域で学び続ける学校づくり～市立須坂支援学校の実践から～」を開催 |
| 7. | 1. 21 | 長野県伊那養護学校はなももの里分教室を視察 |
| | 2. 1 | 第2回特別支援教育フォーラム「障がいある子どものための学校の在り方とは」を開催 |
| | 4. 1 | 学校教育課に特別支援学校設置準備室を設置（県寿台養護学校教頭が市教育委員会に出向） |

3 市立特別支援学校の設置方針（案）

別紙1のとおり

4 設置場所の検討状況

別紙2のとおり

5 今後の進め方

- (1) 市立特別支援学校設立準備委員会（以下「準備委員会」という。）を設置し、学校の設置方針、場所、基本コンセプト等の検討を行います。
- (2) 準備委員会での検討内容について、市民や保護者を対象とした説明会を開催します。

市立特別支援学校の設置方針（案）

1. 基本理念

松本市教育大綱

重点施策① 子どもを誰一人取り残すことのないシステムの構築

- ・インクルーシブ教育の推進と特別支援教育の充実

【基本理念】

すべての子どもたちが、多様な他者を理解して、
もっている力を最大限に発揮して成長することができる、
インクルーシブな教育環境の実現

※ 市立特別支援学校を松本市のインクルーシブ教育のフラッグシップ校に！

2. 基本方針

【基本方針】

1. 特別支援学校と小中学校の児童生徒が、日常的に関わり合って多様性を理解し、互いに尊重し合える学校を目指す。

2. 一人ひとりの教育的ニーズに応えるため、通常の学級、自校の通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある多様な学びの場を確保し、最も適切な支援を受けられる環境を整える。

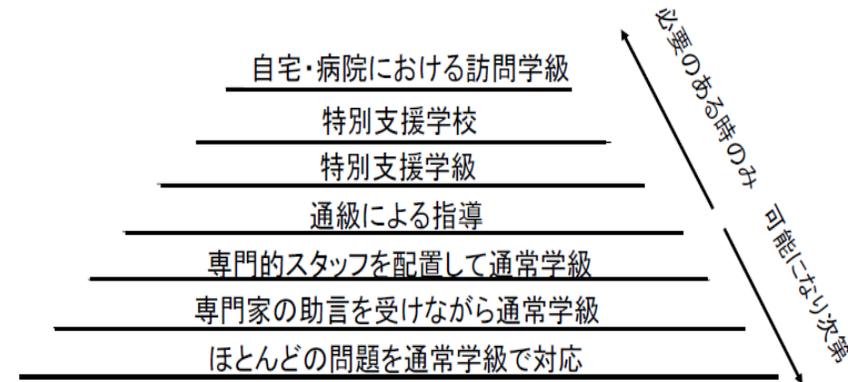
3. 松本市インクルーシブセンターと連携した、通常学級の学びの充実をベースに、ニーズに応じて柔軟に学びの場を選択できるようにする。

※ インクルーシブ教育システム

人間の多様性の尊重等を強化し、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にするという目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み

インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要（国立特別支援教育総合研究所「インクルーシブ教育システム構築支援データベース」より抜粋）

日本の義務教育段階の 多様な学びの場の連続性



平成24年7月 中央教育審議会初等中等教育分科会
「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」より

3. 目指す学校の姿

目指す学校の姿 ⇒ 期待される効果

1

障がいの有無によらず、小中学生との交流及び共同学習の機会を可能な限りつくり出すことのできる学校
⇒共に学ぶ機会の増加による、インクルーシブな共生社会の担い手としての意識の醸成

2

特別支援学校、自校専用LD(学習障害)等通級指導教室の設置による、学びと支援の連続性が確保された学校
⇒障がいの状態、特性及び発達段階等、一人ひとりの教育的ニーズに応じた学びの場の実現
⇒身近な地域で教育を受けられる安心感

3

松本市インクルーシブセンターと連携し、通常学級における多様性を包み込む学びの充実を図るとともに、多様な学びの場の柔軟な変更が実現できる学校
⇒学校全体の学びの充実及び支援力の向上
⇒一人ひとりの、その時点における教育的ニーズに対する的確な対応に基づく、成長、発達の最大限の保障

4

松本市の特別支援教育及びインクルーシブ教育システムの拠点として、先行モデルとなる学校
⇒特別支援教育のセンター的機能の強化
(特別支援教育に関する情報発信、児童生徒や保護者等に対する教育相談等)
⇒インクルーシブ教育システムのフラッグシップ校として、他校への先行事例の提供及びノウハウの共有

4. 想定する学校の概要

【学校規模】

対象とする障がい種		知的障がい	
設置学部		小学部・中学部	
学級数	小学部	単一6学級 (6学年児童数 計36人まで)	【合計】 単一9学級 (最大在籍者数 54人)
	中学部	単一3学級 (3学年児童数 計18人まで)	

※ 定員は、1学級当たり単一障がい：小・中学部6人

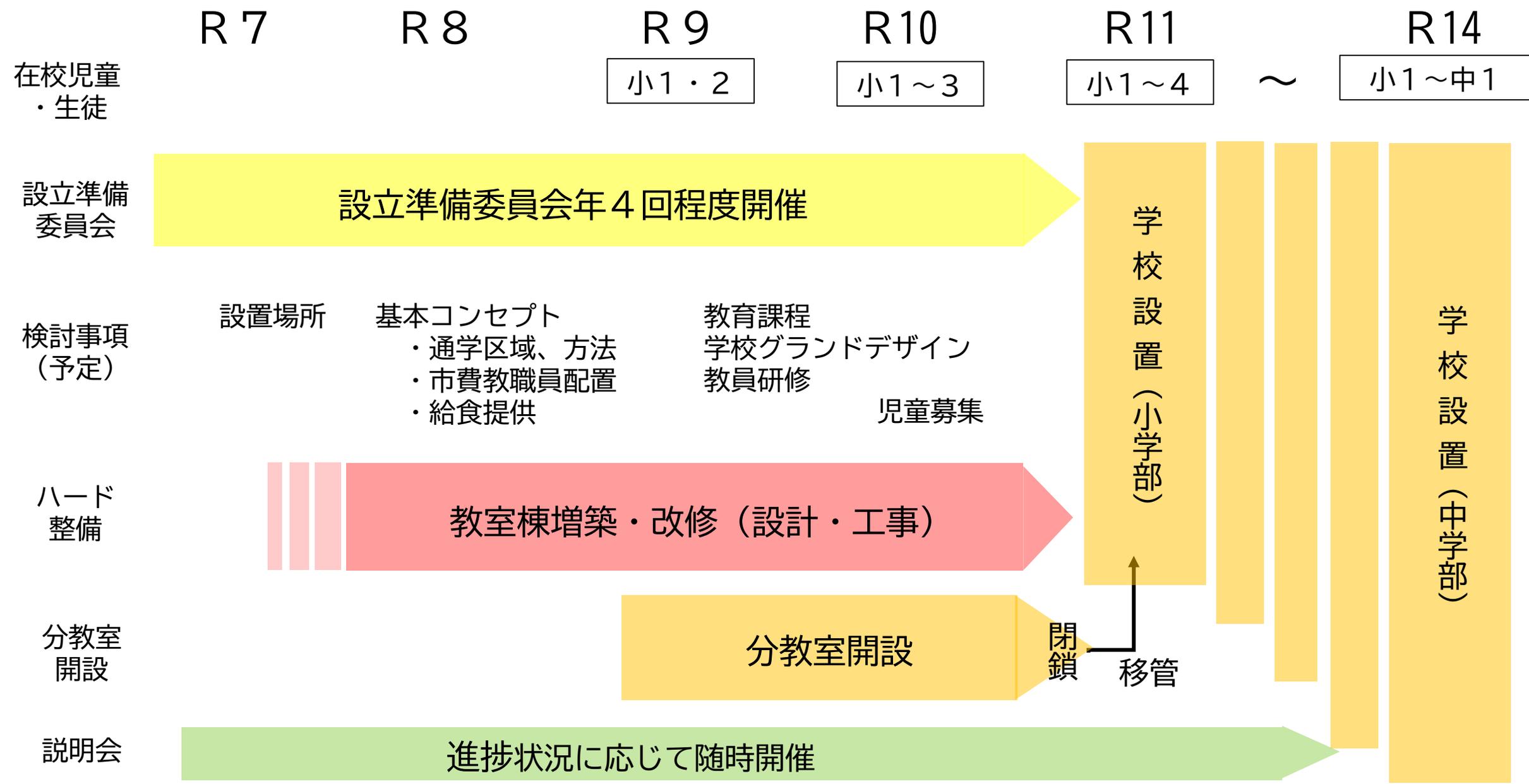
【増築棟の想定建物規模】

○教室数：教室6室、自立活動室2室、教材室、トイレ・更衣室

○増築規模：鉄筋コンクリート2階建て 延べ床面積 約1,500㎡

ただし、校舎内で特別支援学校と小学校を分断することがないように、既存校舎へ特別支援学校の教室を配置するなど、校内の教室配置を検討

5. スケジュール



特別支援学校設置場所の検討状況

設置場所選定の条件

市立特別支援学校の設置には、既存の学校施設（空き教室等）も活用し、不足する教室については増築により確保することから、設置場所の設定に当たっては、3つの条件で併置校の検討を行います。

条件1 市北部方面への設置

- ① 松本養護学校及び寿台養護学校が市南部に立地していることから、市立特別支援学校は、**市北部方面からのアクセスを重視**
- ② **日常的な地域交流の視点から**、小中高校・大学、商業施設などに近い**市街地とする**（県内の多くの特別支援学校が都市部郊外に立地）。

条件2 校舎増築場所の確保

不足する教室は増築により対応。必要な増築部分は、既存校舎との接続を重視し、**増築棟が建設できる敷地を確保**

条件3 中学部の検討（同学年と継続して学ぶ）

- ① 同学年での学び合いができる環境とするため、**特別支援学校の小学部は小学校に併置、中学部は中学校へ併置**
- ② 友人関係が継続するよう、小学校の卒業生が多く進学する中学校に中学部を設置（**小・中学校間の接続**）

条件1 市北部方面への設置

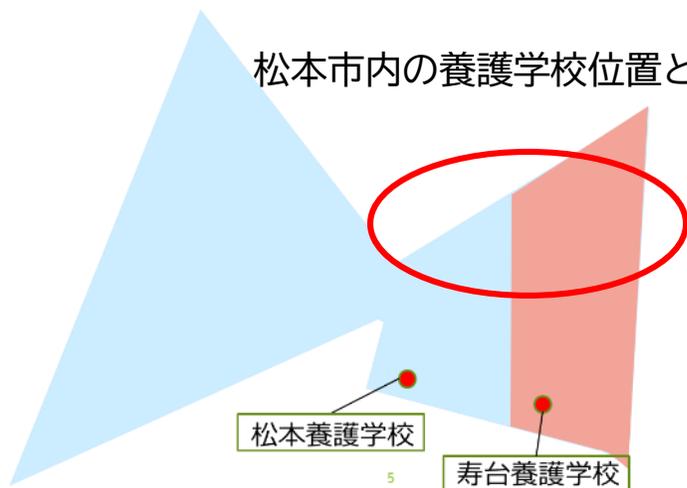
① 松本養護学校及び寿台養護学校が市南部に立地していることから、市立特別支援学校は、市北部方面からのアクセスを重視



○市北部に立地する9校の小学校が検討対象

開智小学校、源池小学校、旭町小学校、田川小学校、清水小学校、島内小学校、岡田小学校、本郷小学校、山辺小学校

松本市内の養護学校位置と学区



② 日常的な地域交流の視点から、小中高校・大学、商業施設などに近い市街地とする。
(県内の多くの特別支援学校が都市部郊外に立地)



○9校の小学校のうち、市街化区域に位置する7校の小学校が検討対象

○市街化区域に位置している学校 判定○

開智小学校、源池小学校、旭町小学校、田川小学校、清水小学校、岡田小学校、本郷小学校

○立地環境が市街化調整区域又は市街化調整区域に接している学校

山辺小学校、島内小学校 判定△

条件2 校舎増築場所の確保

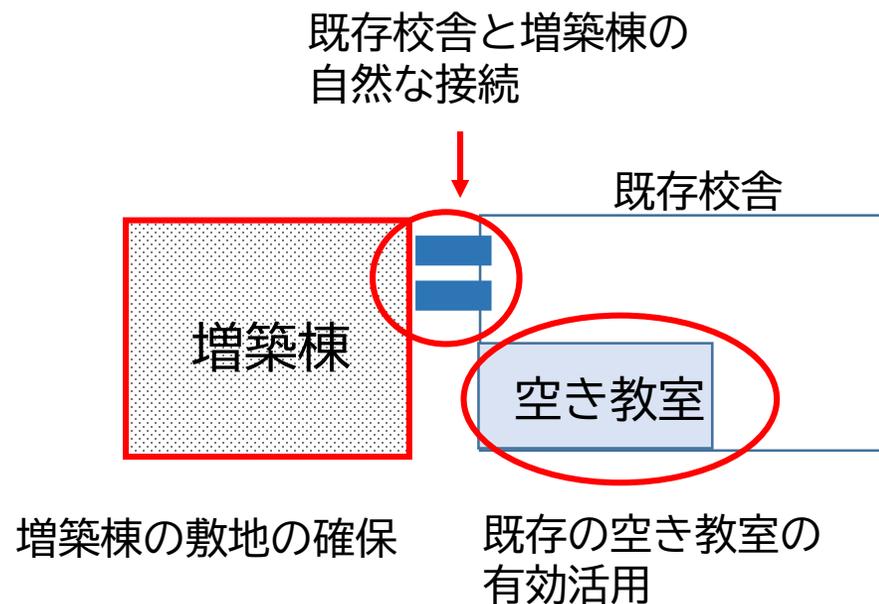
不足する教室は増築により対応。必要な増築部分は、既存校舎との接続を重視し、**増築棟が建設できる敷地を確保**



○7校の小学校のうち、**開智小、源池小及び岡田小の3校の小学校**が検討対象

増築場所の有無による候補校

	増築場所	【参考】※1 プール整備事業計画	【参考】※2 空き教室の見込み
開智小学校	○	プール廃止済み	3教室
源池小学校	○	プール廃止予定	2教室
旭町小学校	×	プール廃止予定	/
田川小学校	×	プール廃止予定	
清水小学校	×	継続予定	
岡田小学校	△	継続予定	なし
本郷小学校	×	継続予定	/



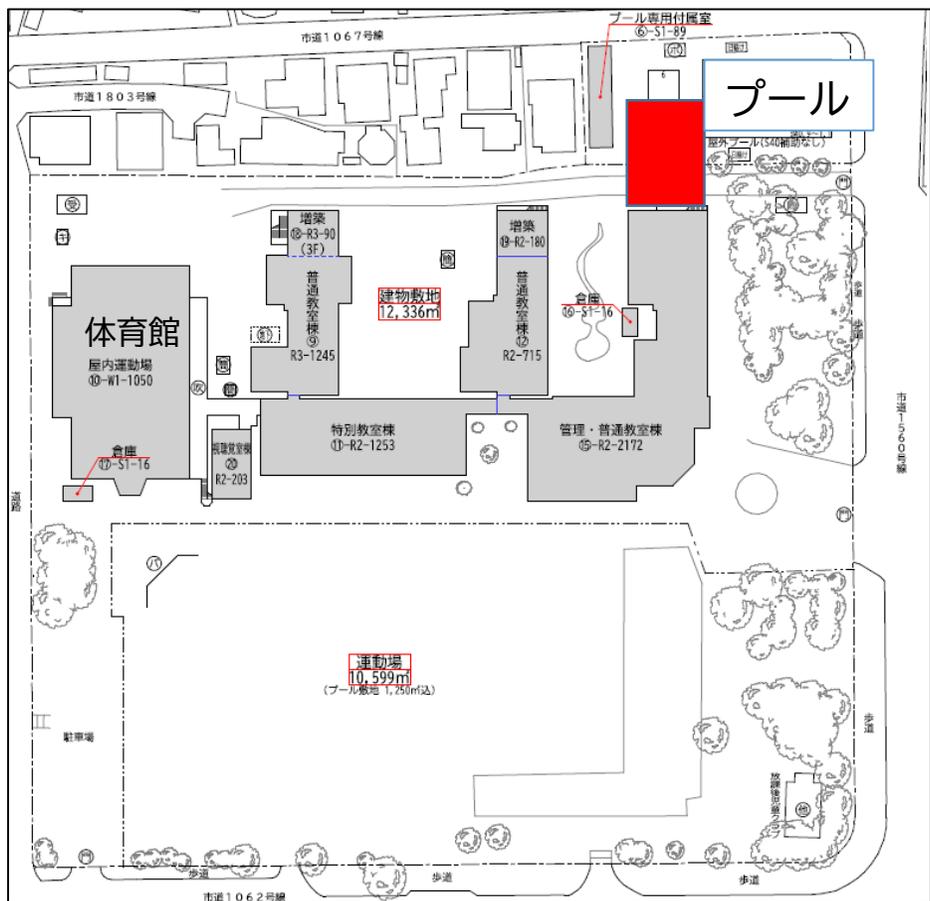
- ※1 プール廃止後は民間施設の利用を検討
- ※2 空き教室の見込みはR5年度調査による

条件2 校舎増築場所の確保

ア 開智小学校 判定○

◎学校プール廃止済みのため、プール跡地へ増築することで、教室棟への接続が可能

校舎配置から想定される増築場所



イ 源池小学校 判定○

◎学校プール廃止予定のため、プール跡地へ増築することで、教室棟への接続が可能

校舎配置から想定される増築場所

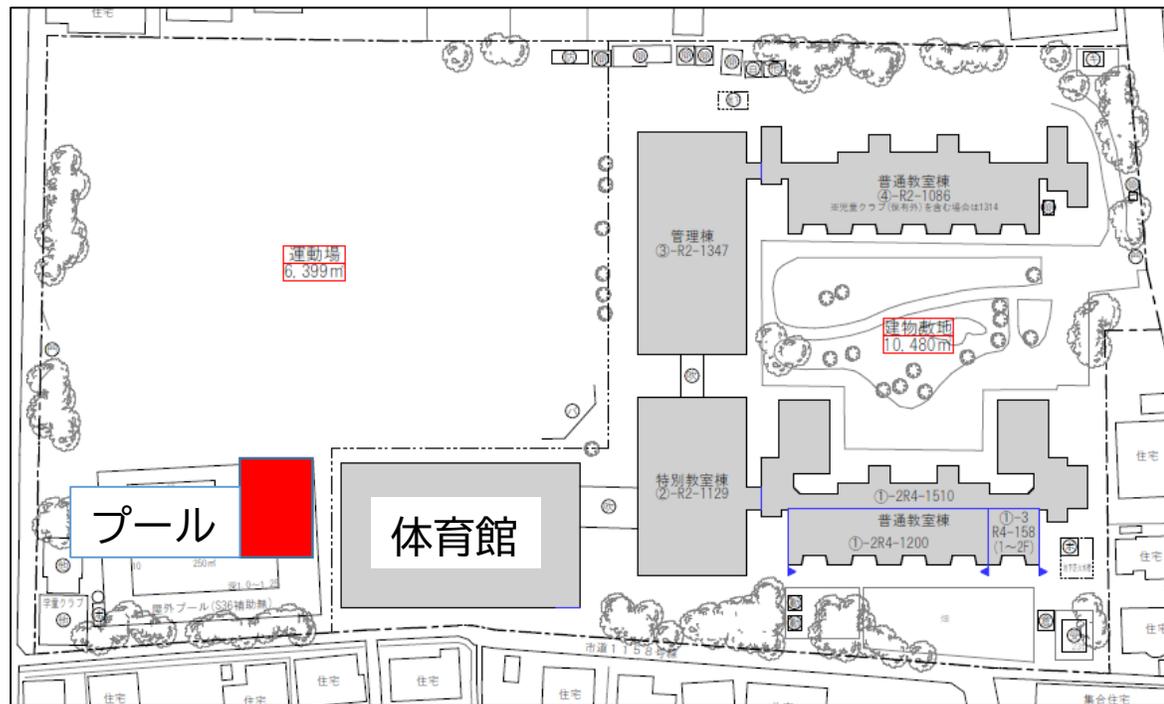


条件2 校舎増築場所の確保

ウ 旭町小学校 判定×

×学校プール廃止予定であるが、プール跡地への増築では、教室棟への接続性が確保できない。他の増築スペースなし。

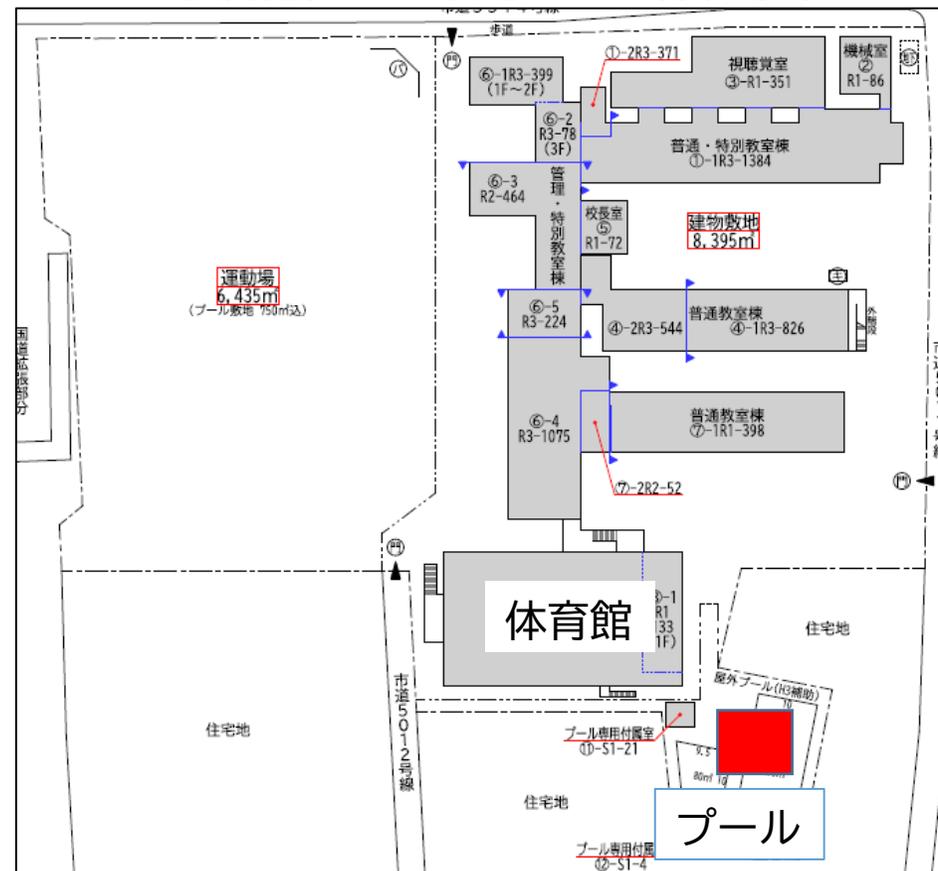
校舎配置から想定される増築場所



エ 田川小学校 判定×

×学校プール廃止予定であるが、プール跡地への増築では、教室棟への接続性が確保できない。他の増築スペースなし。

校舎配置から想定される増築場所

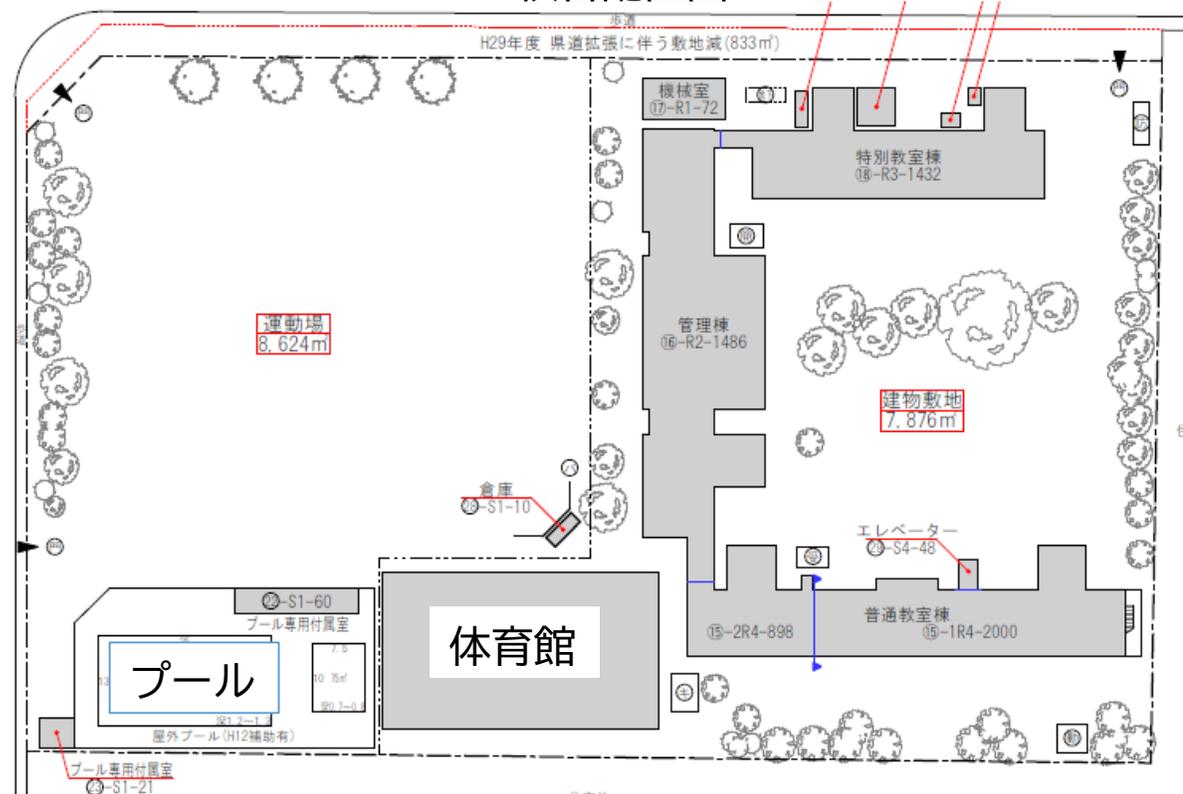


条件2 校舎増築場所の確保

オ 清水小学校 判定×

×校地に増築スペースがなく、教室棟と接続させて増築することが困難（プールは継続使用予定）

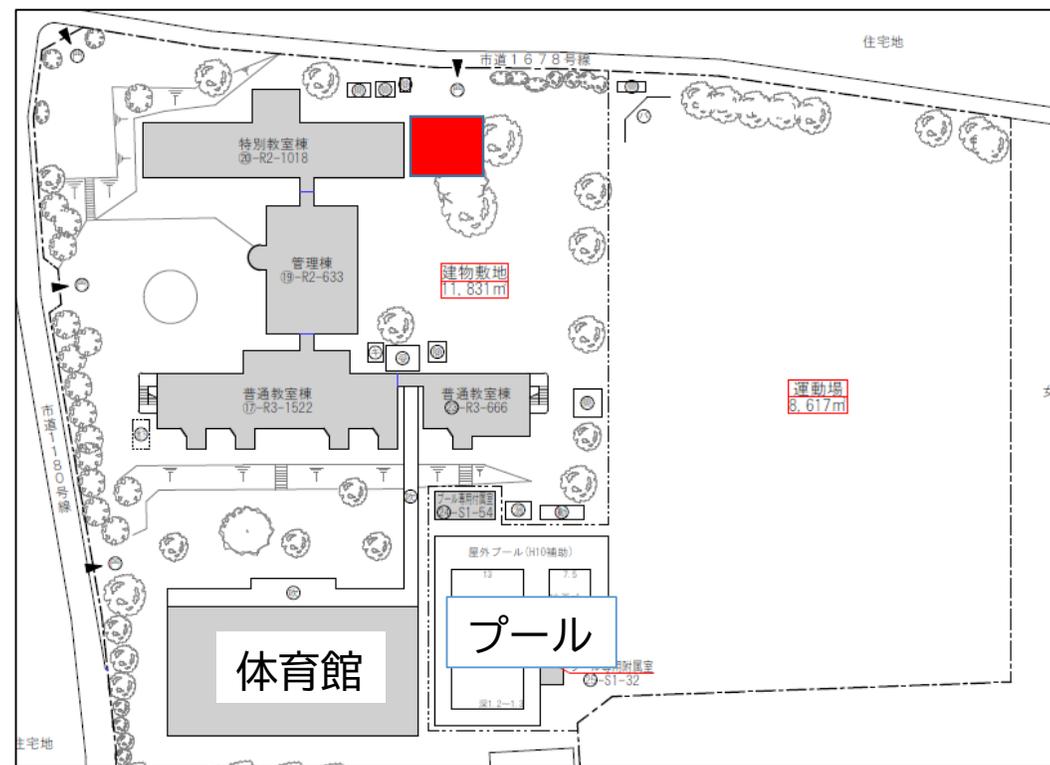
校舎配置図



カ 岡田小学校 判定△

△特別教室棟への接続が可能（プールは継続使用予定）

校舎配置から想定される増築場所



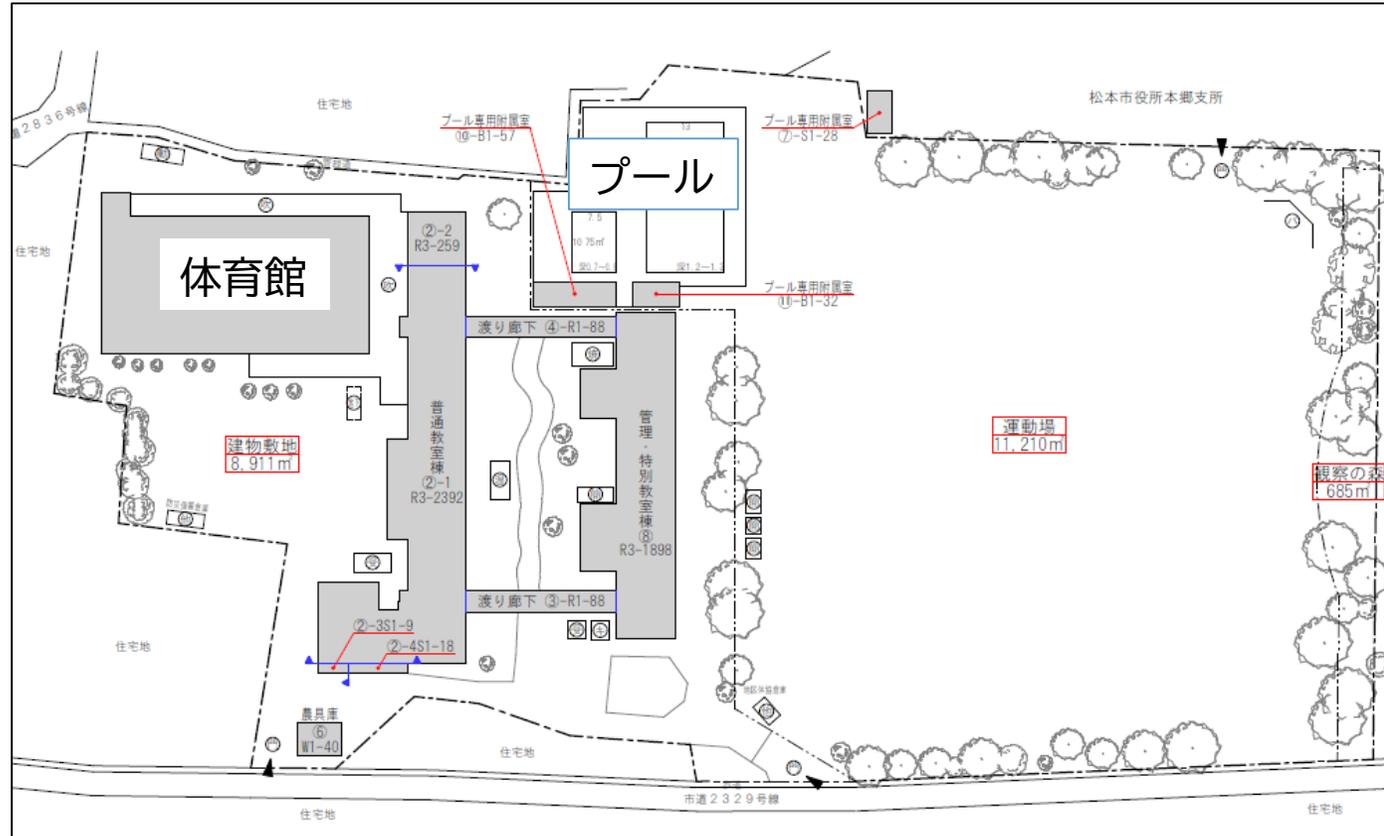
※ プールは継続使用予定

条件2 校舎増築場所の確保

オ 本郷小学校 判定×

×校地に増築スペースがなく、教室棟と接続させて増築することが困難（プールは継続使用予定）

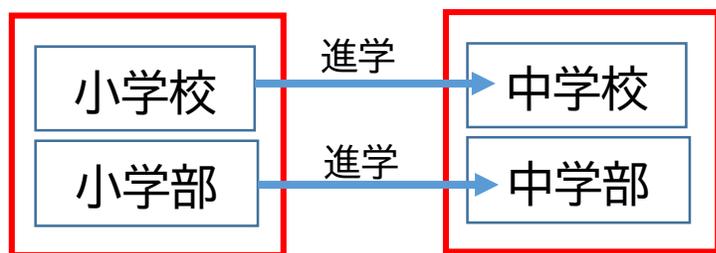
校舎配置図



条件3 中学部の検討（同学年と継続して学ぶ）

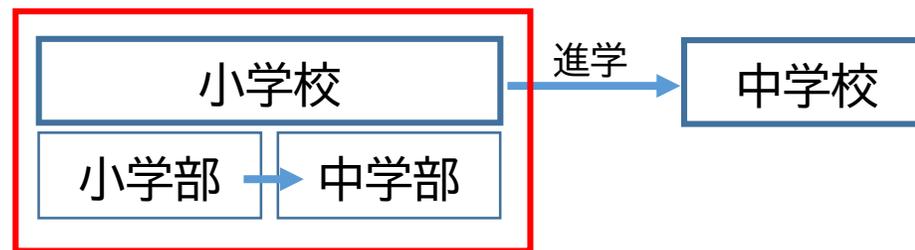
① 同学年での学び合いができる環境とするため、特別支援学校の小学部は小学校に併置、中学部は中学校へ併置

小学部、中学部をそれぞれ小学校、中学校に併置する場合



○中学校、中学部への進学時に友人関係が継続しやすい。

小学校に、小学部、中学部を併置する場合



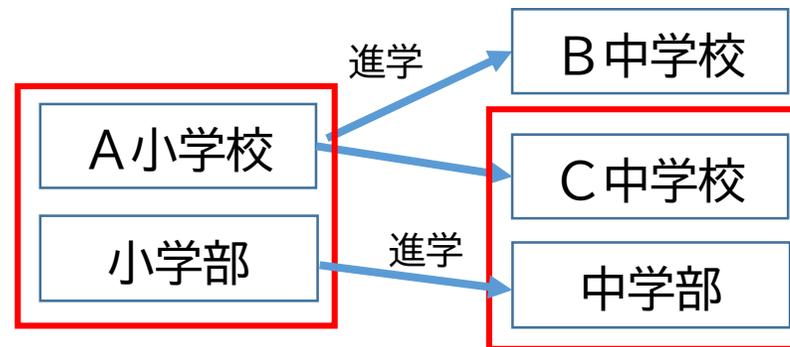
△中学校・中学部への進学時に友人関係が継続しにくい。
△中学部生徒と小学校児童では、年齢差あり活動がしづらい。

② 友人関係が継続するよう、小学校の卒業生が多く進学する中学校に中学部を設置（小学校と中学校間の接続）

○源池小学校は清水中学校に、岡田小学校は女鳥羽中学校に90%以上進学

△開智小学校は、旭町中学校と丸ノ内中学校に分かれて進学

小学校と中学校の接続の例



条件3 中学部の検討（同学年と継続して学ぶ）

ア 開智小学校 ⇒ 旭町中学校 判定△

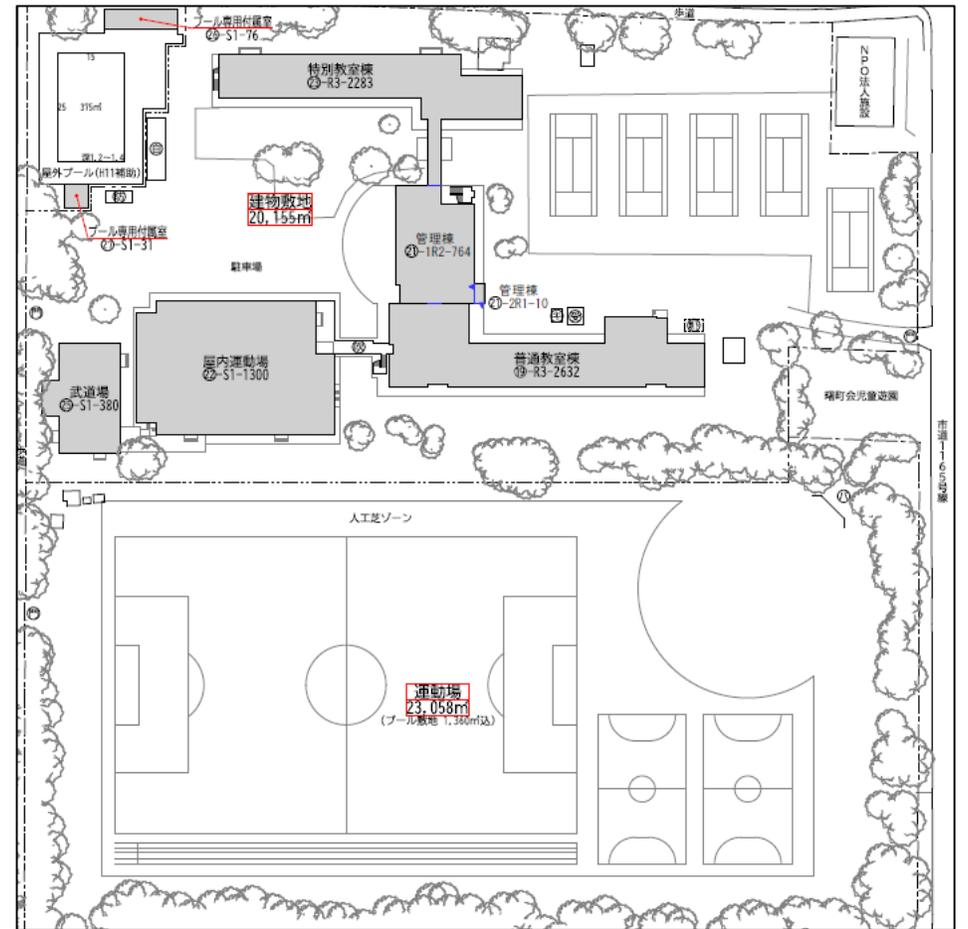
旭町中学校概要

- 所在地 松本市旭3丁目7-1
- 児童数 312名 (R7.4)
- 学級数 14 (通常学級9、特支学級5)
- 学校施設
 - 建築年度 S58年度
 - 長寿命化改良事業 R15年度以降 (予定)

条件2 △校地に余裕はないが、プールを廃止することで、特別教室棟への接続は可能（プールは廃止予定）

条件3 △開智小から共に進学できる割合は50%程度で、小・中学校間の接続性が低い。

旭町中学校校舎配置図



条件3 中学部の検討（同学年と継続して学ぶ）

イ 開智小学校 ⇒ 丸ノ内中学校

判定△

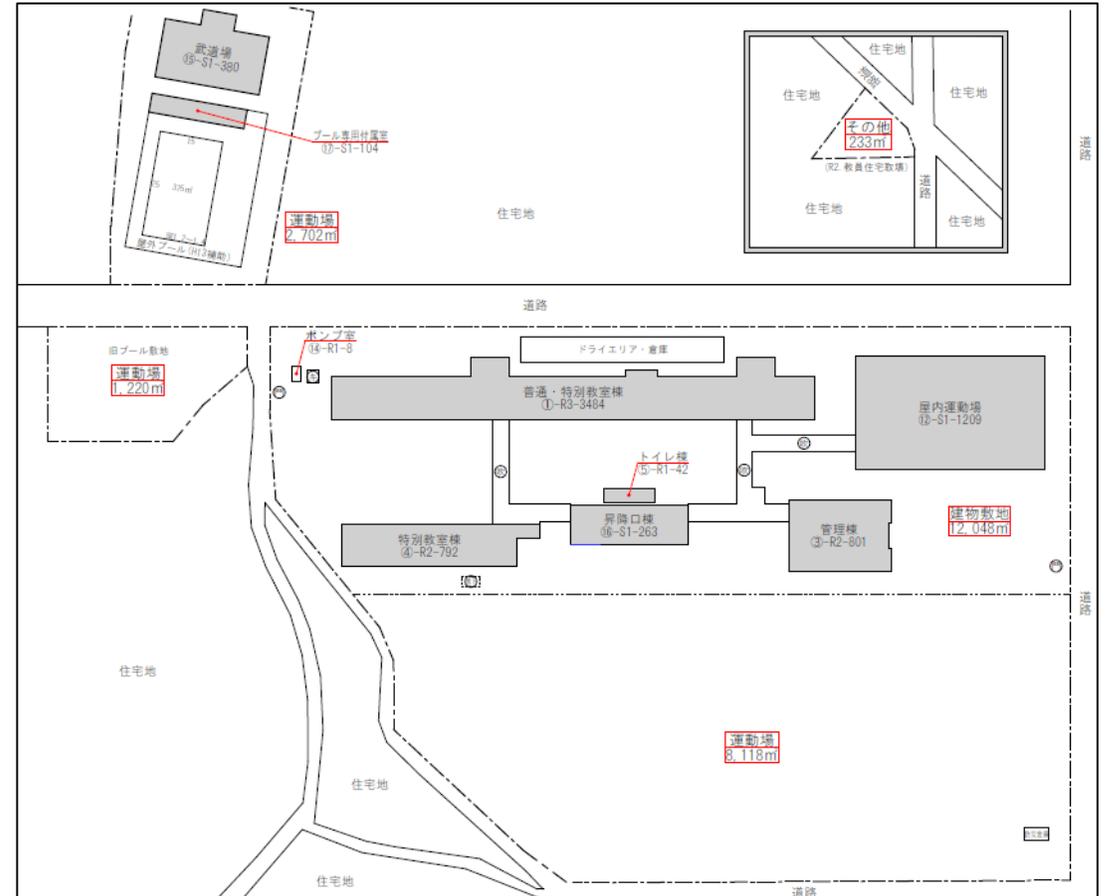
丸ノ内中学校概況

- 所在地 松本市宮沢3丁目6-1
- 児童数 220名 (R7.4)
- 学級数 10 (通常学級6、特支学級4)
- 学校施設
 - 建築年度 S25年度
 - 改築事業 基本計画・基本設計策定中

条件2 △改築事業の基本計画・基本設計に着手しており、計画変更は困難
△校内及び周辺に傾斜が多い。

条件3 △開智小から共に進学できる割合は50%に満たず、小・中学校間の接続性が低い。

丸ノ内中学校校舎配置図



条件3 中学部の検討（同学年と継続して学ぶ）

ウ 源池小学校 ⇒ 清水中学校 判定○

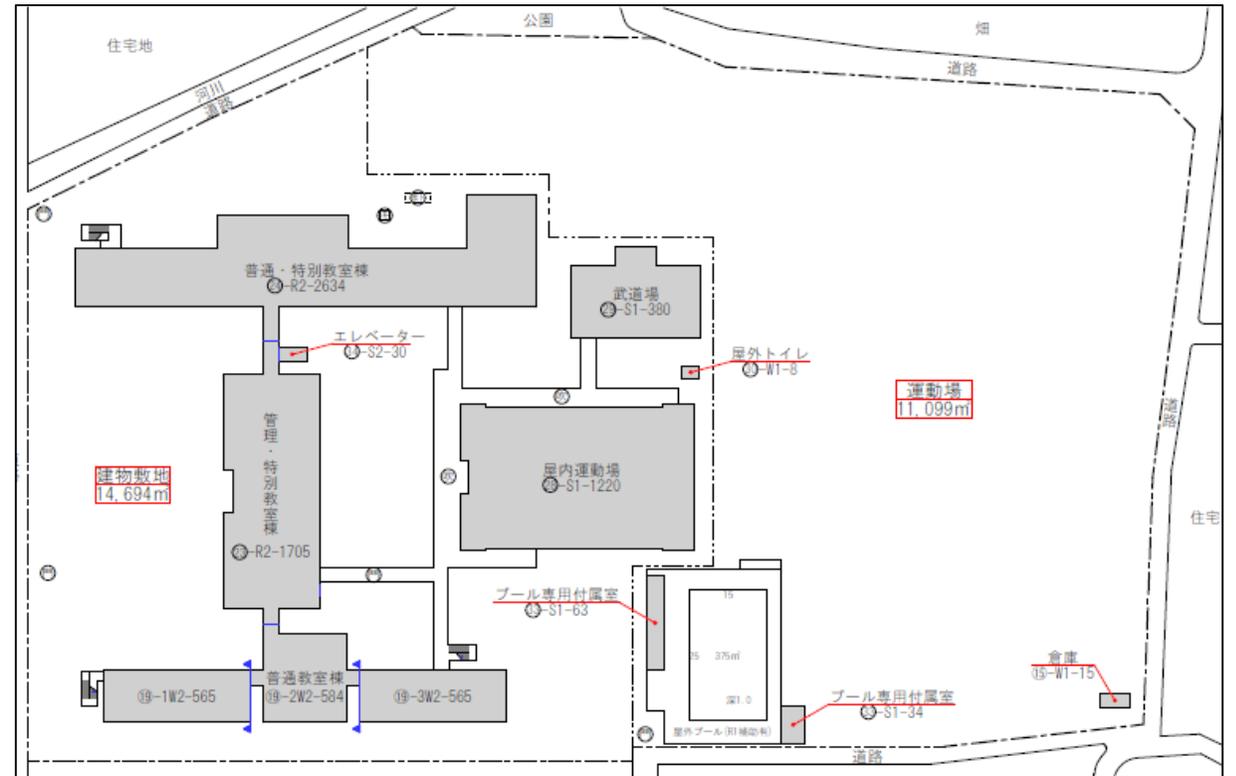
清水中学校概況

- 所在地 松本市清水2丁目7番12号
- 児童数 367名 (R7.4)
- 学級数 17 (通常学級11、特支学級6)
- 学校施設
 - 建築年度 S61年度
 - 長寿命化改良事業 R10年度 (予定)

条件2 ○校地の使い方比較的余裕がある。
○エレベーター設置済み

条件3 ○源池小から共に進学できる割合は90%以上で小・中学校間の接続性が高い。

清水中学校校舎配置図



3校の比較検討結果

小学校	中学校	条件 1 市北部地域への設置	条件 2 校舎増築場所の確保	条件 3 同学年と継続して学ぶ
開智小	旭町中	○	○ 教室棟に接続した増築が可能	△ 旭町中 50%以上
	丸ノ内中			△ 丸ノ内中 50%未満
源池小	清水中	○	○ 教室棟に接続した増築が可能	○ 清水中 90%以上
岡田小	女鳥羽中	○ 中学校が隣接	△ 特別教室棟に接続した増築が可能	○ 女鳥羽中 90%以上

比較検討結果のまとめ

候補地となる小学校を比較検討した結果は下記のとおり

	条件1 北部方面への設置	
	北部に立地	市街地に立地
開智小	○	○
源池小	○	○
旭町小	○	○
清水小	○	○
田川小	○	○
島内小	○	×
岡田小	○	○
山辺小	○	×
本郷小	○	○

条件2 校舎増築場所 の確保
○
○
×
×
×
△
×

条件3 同学年と継続して学ぶ	
小中併置	小中接続
○	△
○	○
△	○